

(101号)

中国シルク情勢 (2019年2月)

日 絹 連

1月9日、中国が自主開発した「生糸電子検定設備」の試験運用開工式が、江蘇省の呉江
県華佳集団で行われた。中国シルク協会唐琳会長が2014年に「生糸欠点織度電子検査試験
方法」を発表してから商務部やシルク協会などの協力により、浙江シルク科技公司、全国シ
ルク標準技術委員会、凱喜雅集団、蘇州シルク大学などの関係企業の努力で完成したもので
ある。この単織度錠式の検定機は、「機械が小さく」、「製造コストが安く」、「人手がいらない」
などの特徴を持ち、今までの人の目や手触りなど伝統的な方法から機械による方法が実
現できたものである。銭有清副会長氏は、この機械は試験段階で様々な課題を解決するこ
とができることから、世界のシルク分野へ大きな影響を与えることになるが、普及できるよう
期待したいと挨拶した。



1月20日、浙江巴貝集団は、杭州で「新聞発表会」を行い、年生産量1万トン生繭第1期全齢人工飼料養蚕プロジェクトが本格的な稼働に入り、正式にスタートしたと発表した。

この大規模な工場化養蚕が18項目の特許及び50類の発明を申請し、出来上がりの生糸が5A以上（第三者の検定）であり、200名の従業員は農家10万人分の養蚕量を生産し、蚕品種の改良・飼料の配方・蚕病予防・環境コントロール・人工知能などの多項目技術を一体化とする世界一の近代化養蚕方式が成功したと発表した。



1月末の財務省統計によると、2018年度の生糸、撚糸輸入は生糸5,038俵、撚糸11,092俵、合計16,130俵となり、2017年度と比べて生糸数量が33.4%減少、金額も19.7%減少、生糸輸入平均単価は7,930円/kgで、撚糸数量は23.8%減少、金額は9.9%減少、撚糸輸入平均単価は7,999円/kgとなった。

1月の生糸繭の先物取引について、12月とあまり変わらなかった。
嘉興、南寧両生糸取引所が旧正月のため、2月2日～2月13日まで休市となる。また、年に1回の2019香港シルク交易会は2月22～24日に香港で開催予定である。

以 上